

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2015.10.30

No.435



業況 BSI 2期連続上昇、6期ぶりにプラスに転じる (平成27年7～9月期の県内企業業況調査結果)

◎駆け込み需要の反動減の影響をほぼ払拭し、1年半ぶりに回復傾向を示した。

調査内容

平成27年7～9月期の県内企業の業況実績
平成27年10～12月期の県内企業の業況見通し

調査時期

平成27年10月上旬

調査対象企業

県内中堅企業 330社

回答企業

215社(回収率:65.2%)

製造業 49社 建設業 41社 卸売業 48社
小売業 28社 運輸業・サービス業 49社

青森地区 82社 津軽地区 53社 県南地区 80社

BSIとは

Business Survey Index の略であり、企業業況判断指標という意味である
指標の求め方は次の通り

BSI=「業況良好企業及びやや良好企業の割合」-「業況不振企業及びやや不振企業の割合」

注:業況判断は前年同期との比較による

1. 概 況

平成 27 年 7～9 月期の全産業「業況 BSI」は前期(27 年 4～6 月期)比 7.3 ポイント上昇の 5.1 となった。2 期連続で上昇し、全体ではプラスに転じた。

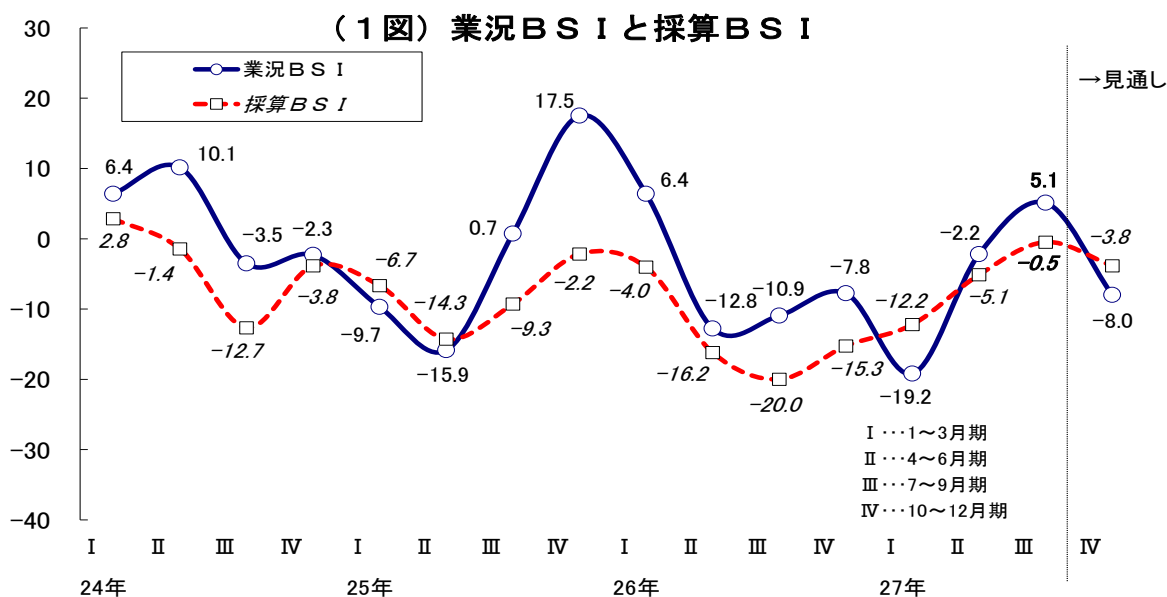
全産業「採算 BSI」は同 4.6 ポイント上昇の△0.5 となった。建設業などで低下したものの、製造業や小売業で好転がみられ、4 期連続で上昇した。

主要 BSI をみると、「生産高 BSI」、「操業度 BSI」はともに 3 期連続で上昇した。建設業の「受注高 BSI」は 4 期ぶりに上昇しプラスに転じた。「売上高 BSI」は 2 期連続で上

昇し、「出荷高 BSI」は 3 期連続で上昇した。「仕入単価 BSI」は再び低下、「販売単価 BSI」は 2 期連続で低下し、価格ギャップは再び縮小した。「在庫投資 BSI」は製造業、非製造業ともに上昇した。「設備投資 BSI」は製造業が上昇、一方、非製造業はほぼ横ばいながら幾分低下した。

来期の見通しについては、消費税率引き上げの影響は次第に薄らいでいくものの、「業況 BSI」、「採算 BSI」ともに低下する見通しである。

(以上、1～12 図、付表 参照)



(付表)平成27年7～9月期の主要BSI一覧 (※前期27年4～6月期)

	当期	前期比		当期	前期比
業況 BSI	5.1	7.3	仕入単価 BSI	34.0	-5.6
採算 BSI	-0.5	4.6	販売単価 BSI	9.1	-0.6
生産高 BSI	8.3	5.8	在庫投資 BSI 製造	6.1	6.1
操業度 BSI	6.1	6.1	〃 非製造	0.0	3.3
受注高 BSI	13.2	51.4	設備投資 BSI 製造	-4.1	14.5
売上高 BSI	6.5	1.5	〃 非製造	-2.0	-0.4
出荷高 BSI	12.5	14.9	資金繰り BSI	11.0	7.0

(付表)来期見通し (平成27年10～12月期)

	来期見込み	当期比		来期見込み	当期比
業況 BSI	-8.0	-13.1	採算 BSI	-3.8	-3.3

2. 27年7～9月期の業況

(1) 業況 —2期連続で上昇、6期ぶりにプラスに転じる—

27年7～9月期の全産業「業況BSI」は前期比7.3ポイント上昇の5.1となった。業況判断の内訳をみると、業況好転とした企業の割合が同0.5ポイント増加の31.6%、業況悪化とした企業の割合は同6.8ポイント減少の26.5%となった。

産業別の「業況BSI」をみると、製造業は前期比12.2ポイント上昇の12.2となった。飲料、生コンなどで業況悪化したものの、食料品、木材・木製品、電子部品・デバイス、精密機械などで好転がみられ、全体として上昇した。

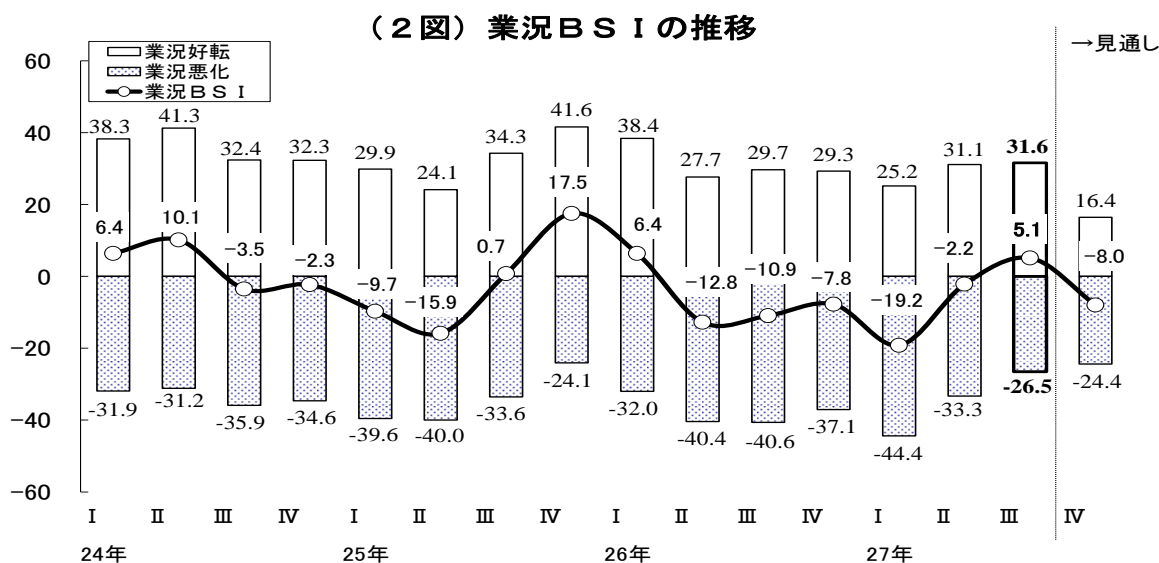
非製造業は、建設業が前期比24.0ポイント上昇の7.3と大幅に改善、卸売業が同8.4ポイント上昇の△8.3、運輸・サービス業が同2.0ポイント上昇の20.4となった。一方、

小売業は17.7ポイント低下の△14.3となった。

小売業は、スーパー、燃料などが上昇したものの自動車などが低下した。卸売業は、建築材料、水産加工品などで幾分悪化したものの、青果物、鮮魚などで好転した。建設業は、設備工事で悪化したものの総合工事、職別工事で好転が広がった。運輸・サービス業は貨物運送、レンタカー、宿泊などで好転が広がった。

当期は、小売業が低下したものの、大幅に上昇した建設業のほか、製造業、卸売業などが上昇し、全体として1年半ぶりにプラスに転じた。

(以上、2図、付表 参照)



(付表) 産業別業況BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
26年 7～9月期	-18.8	12.5	0.0	-60.0	3.4	-10.9
26年 10～12月期	-14.3	30.4	-25.0	-28.6	-9.7	-7.8
27年 1～3月期	-20.4	-2.9	-38.0	-45.5	8.5	-19.2
27年 4～6月期	0.0	-16.7	-16.7	3.4	18.4	-2.2
27年 7～9月期	12.2	7.3	-8.3	-14.3	20.4	5.1
来期見通し	-2.0	-7.5	-8.3	-17.9	-8.3	-8.0

(2) 採算の状況 — 「採算 BSI」 4 期連続上昇 —

27 年 7～9 月期の全産業「採算 BSI」は前期比 4.6 ポイント上昇の△0.5 となった。採算判断の内訳をみると、採算好転とした企業の割合は同 3.1 ポイント上昇の 13.9%、一方、採算悪化とした企業の割合は同 1.5 ポイント減少の 14.4%となった。

産業別の「採算 BSI」をみると、製造業は前期比 15.5 ポイント上昇の 4.1 となった。酒類、木材・木製品、生コン、一般機械などで悪化がみられたものの、調味料、電子部品・デバイス、精密機械、造船で好転した。

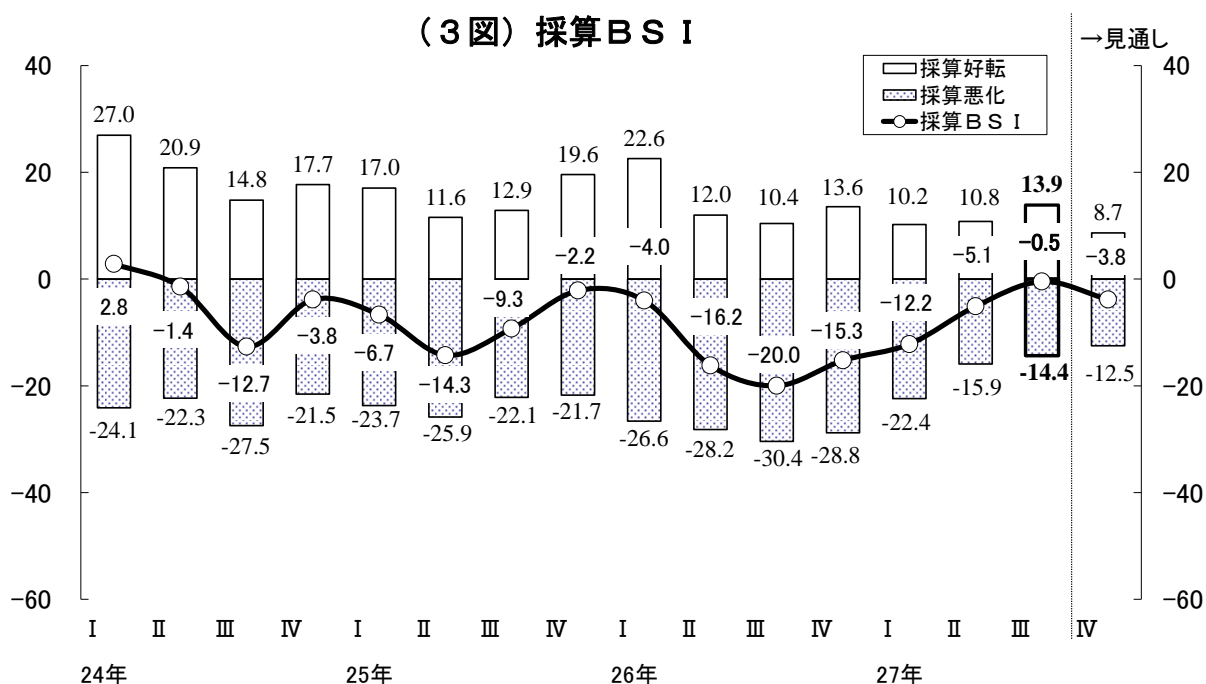
非製造業は、小売業が前期比 7.2 ポイント上昇の 3.6、運輸・サービス業が同 6.3 ポイント上昇の 8.9 となった。一方、建設業が同 4.6 ポイント低下の△17.1、卸売業が同 2.2

ポイント低下の△2.2 となった。

小売業は自動車で悪化がみられたものの、スーパー、燃料、家電で好転した。運輸・サービス業は鉄道、不動産賃貸で悪化がみられたものの、貨物運送で好転が広がったほか、旅客運送、ガス、宿泊などで好転がみられた。建設業は全般に悪化とする割合が広がった。卸売業は繊維・衣服、青果物が好転したものの、水産物、建設資材、機械器具が悪化した。

当期の「採算 BSI」は 4 期連続で上昇した。建設業、卸売業で悪化したものの、製造業、小売業、運輸・サービス業で好転した。

(以上、3 図、付表 参照)



(付表) 産業別採算 B S I の推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
26年 7～9 月期	-16.7	-8.3	-18.2	-35.0	-24.1	-20.0
26年 10～12 月期	-17.9	-8.7	-15.0	-26.7	-12.5	-15.3
27年 1～3 月期	-12.8	-5.9	-12.2	-12.5	-16.3	-12.2
27年 4～6 月期	-11.4	-12.5	0.0	-3.6	2.6	-5.1
27年 7～9 月期	4.1	-17.1	-2.2	3.6	8.9	-0.5
来期見通し	2.0	-9.8	2.2	-10.7	-6.7	-3.8

(3) 生産高・操業度の状況 — 「生産高 BSI」、「操業度 BSI」とともに上昇 —

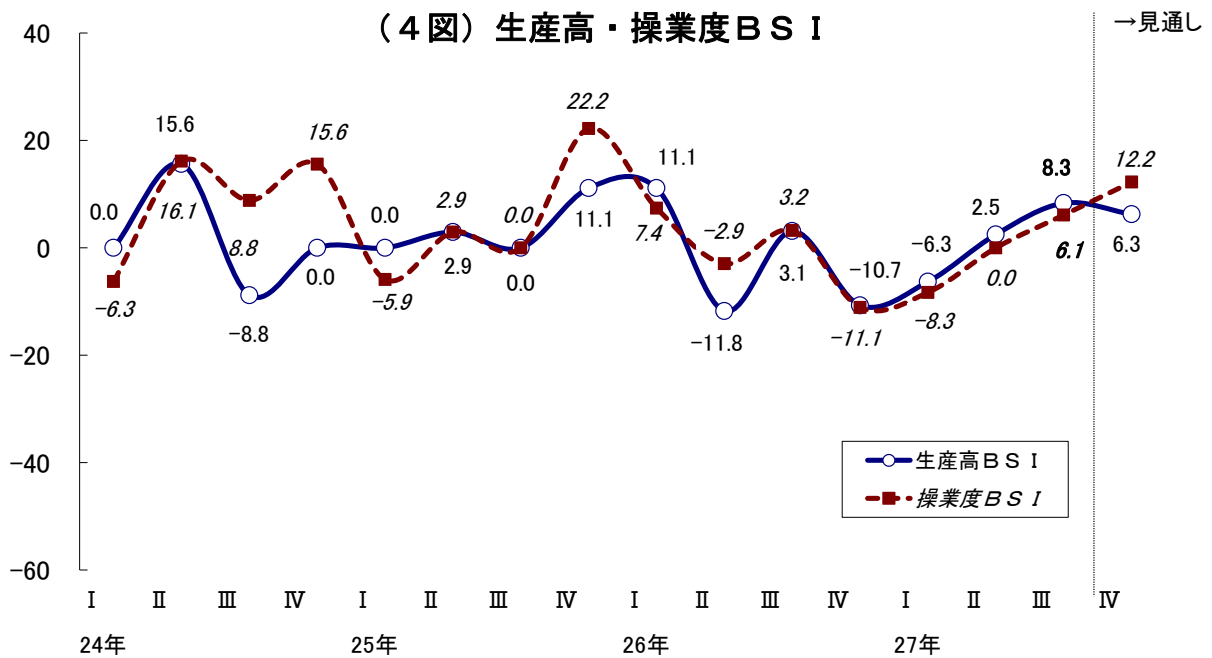
27 年 7～9 月期の「生産高 BSI」は前期比 5.8 ポイント上昇の 8.3 となった。また、「操業度 BSI」は同 6.1 ポイント上昇の 6.1 となり、ともに 3 期連続で上昇した。

生コン、鉄鋼などで減産となったものの、食料品全般、飲料、パルプ・紙、化学、電子

部品・デバイス、造船などで増産となった。

来期は「生産高 BSI」が当期比 2.0 ポイント低下の 6.3、「操業度 BSI」が同 6.1 ポイント上昇の 12.2 となる見通しである。

(以上、4 図 参照)



(4) 受注高の状況 — 「受注高 BSI」4 期ぶりに上昇、プラスに転じる —

27 年 7～9 月期の建設業の「受注高 BSI」は前期比 51.4 ポイント上昇の 13.2 と大幅に上昇した。内訳をみると、受注増加とした企業の割合が同 25.0 ポイント上昇の 36.8%、一方、受注減少とした企業の割合は同 26.3 ポイント減少の 23.7%となった。当期の BSI は受注増加の割合が減少を上回り、4 期ぶりに上昇した。

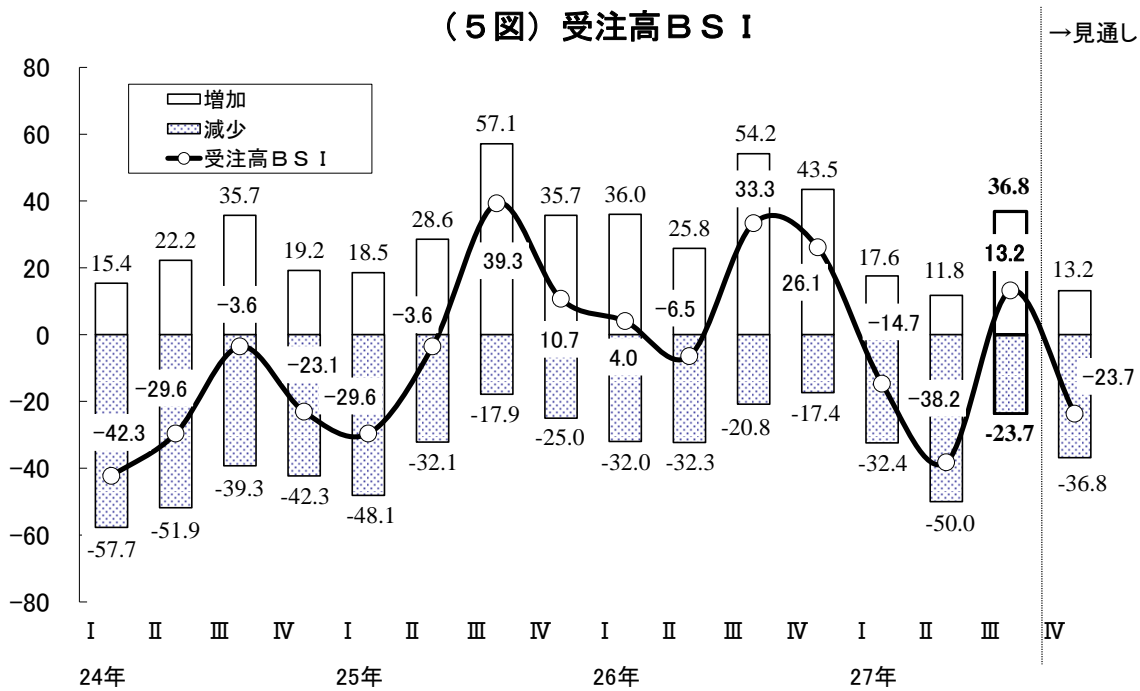
当期は、総合建設で受注増加との回答が

前期に比べ幾分広がったことなどが寄与した。

来期は、受注増加とする割合が当期比 23.6 ポイント減少の 13.2%、受注減少とする企業の割合は同 13.1 ポイント増加の 36.8% と見込まれている。この結果、「受注高 BSI」は同 36.9 ポイント低下の $\Delta 23.7$ と低下する見通しである。

(以上、5 図 参照)

(5図) 受注高BSI



(5) 売上高・出荷高の状況 —「売上高BSI」2期連続で上昇—

27年7～9月期の「売上高BSI」は、前期比1.5ポイント上昇の6.5となり、2期連続で上昇した。

産業別の「売上高BSI」をみると、卸売業が前期比16.2ポイント上昇の10.6となった。一方、小売業は同11.6ポイント低下の△18.5、運輸・サービス業は同8.7ポイント低下の16.3となった。

卸売業は、青果物、水産物、建設資材、漁具などで増加した。小売業は、自動車などで減少割合が広がった。運輸・サービス業は、道路貨物運送、ガス、不動産賃貸などで減少した。

なお、来期の「売上高BSI」は卸売業で食料品や建築資材で低下が見込まれるほか、小売業では自動車や百貨店が、運輸サービス業では、道路旅客運送、道路貨物輸

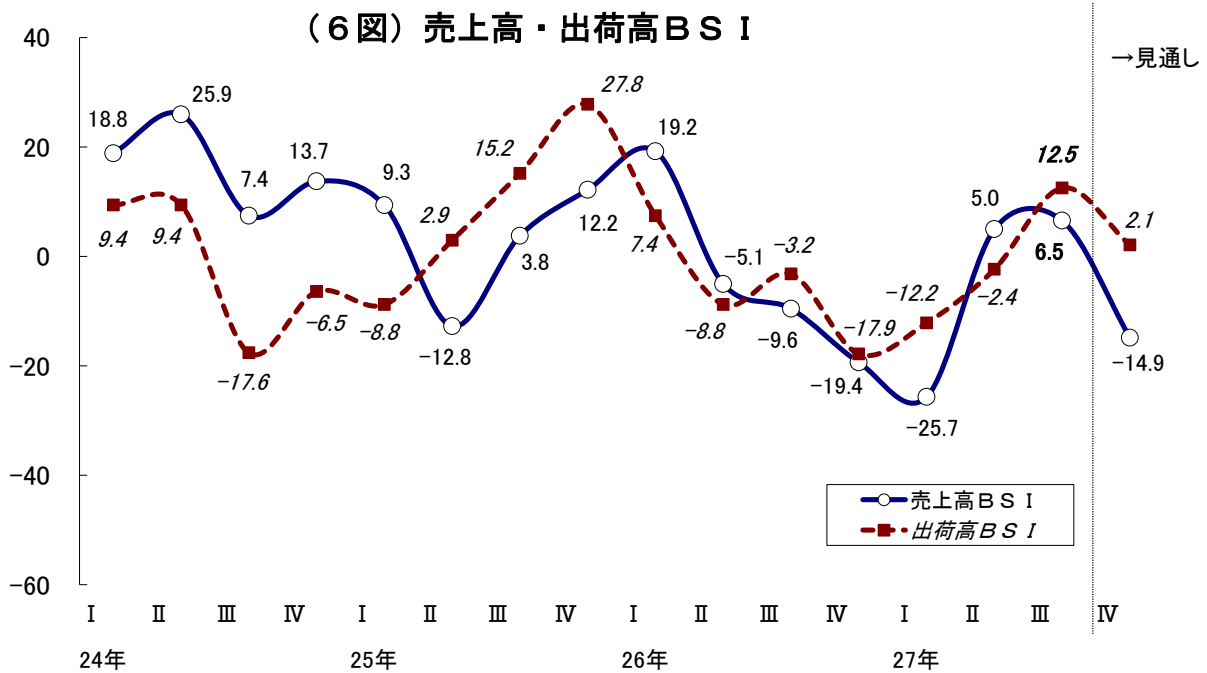
送の減少がそれぞれ見込まれ、全体では当期比21.4ポイント低下の△14.9と落ち込む見通しである。

製造業の27年7～9月期の「出荷高BSI」は前期比14.9ポイント上昇の12.5と3期連続で上昇し、プラスに転じた。

生コン、鉄鋼などで減少したものの、食料品、飲料、パルプ・紙、化学、金属、電子部品・デバイス、精密機械、造船などで出荷増加の動きがみられた。

来期の「出荷高BSI」は、生コン、鉄鋼、木材・木製品が引き続き減少が見込まれることに加え、一般機械器具、電子部品・デバイスなども減少が見込まれ、当期比10.4ポイント低下の2.1と低下する見通しである。

(以上、6図、付表参照)



(付表) 売上高・出荷高BSIの推移

	出荷高BSI	売上高BSI			
	製造業	卸売業	小売業	運輸・サービス	
26年 7-9月期	-3.2	-4.2	-40.0	6.9	-9.6
26年 10-12月期	-17.9	-35.0	-20.0	-9.4	-19.4
27年 1-3月期	-12.2	-42.0	-54.5	-2.1	-25.7
27年 4-6月期	-2.4	-5.6	-6.9	25.0	5.0
27年 7-9月期	12.5	10.6	-18.5	16.3	6.5
来期見通し	2.1	-8.7	-22.2	-16.7	-14.9

(6) 価格の状況 —価格ギャップ、再び縮小—

27年7～9月期の「仕入単価BSI」は前期比5.6ポイント低下の34.0となり、再び低下した。産業別にみると、製造業が同15.9ポイント低下の25.0、非製造業は同1.1ポイント低下の37.8となった。

製造業は、農産加工、生コン、鉄鋼、造船で低下がみられた。

非製造業は、卸売業が前期比10.8ポイント低下の43.5、建設業が同2.7ポイント低下の38.5となった。一方、小売業は同11.5ポイント上昇の26.9となった。

卸売業は飲料、建設資材などで低下がみられた。建設業は、全体的に仕入単価上昇の動きが幾分弱まった。小売業はスーパー、自動車、衣料品、事務機、家電、書籍で上昇がみられた。

27年7～9月期の「販売単価BSI」は前期比0.6ポイント低下の9.1と2期連続で低下した。産業別にみると、製造業が前期比3.7ポイント低下の12.2となった。一方、非製造業は同0.6ポイント上昇の8.2となった。

製造業は酒類、木材・木製品、生コン、鉄鋼、精密機械などで販売単価の低下がみられた。

非製造業は、運輸・サービス業が同5.7ポイント上昇の0.0となった。一方、卸売業は同4.3ポイント低下の27.1、建設業は同3.0

ポイント低下の 0.0 となった。小売業は前期と同数値の 0.0 だった。

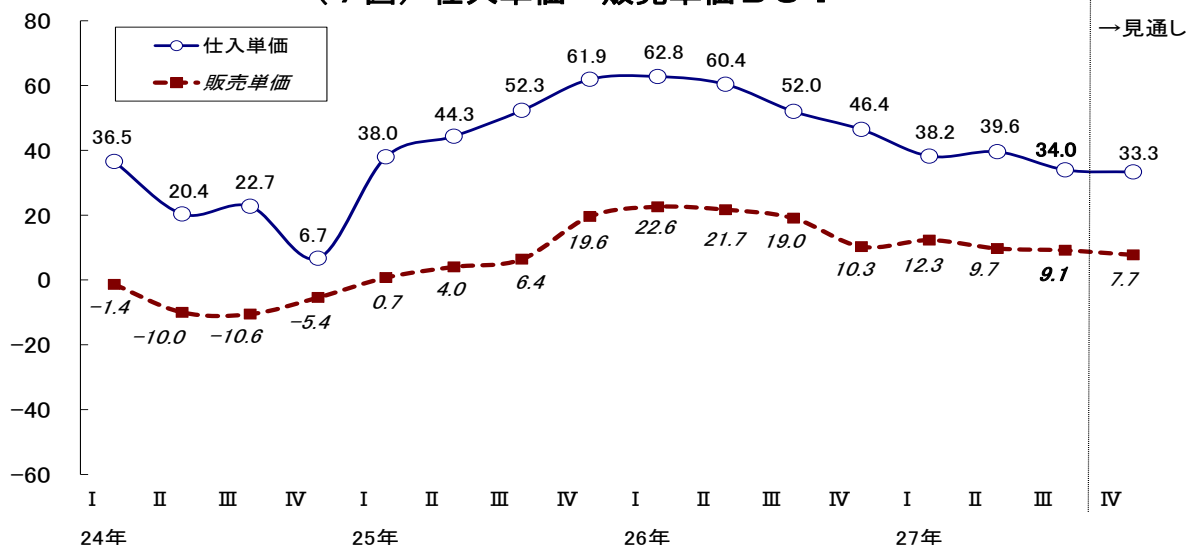
運輸・サービス業は道路旅客運送、宿泊業で上昇がみられた。一方、卸売業は建設資材、機械器具、漁具などで低下がみられた。建設業は総合建設、職別工事、設備工事でそれぞれ低下が幾分みられた。小売業は、スーパー、衣料品、書籍などで上昇したものの、自動車、燃料で低下した。

この結果、当期は仕入単価、販売単価とも低下する中、価格ギャップについては、再び縮小した。

なお、来期については、「仕入単価 BSI」が当期比 0.7 ポイント低下の 33.3、「販売単価 BSI」が同 1.4 ポイント低下の 7.7 となり、価格ギャップはやや拡大する見通しである。

(以上、7 図、付表 参照)

(7 図) 仕入単価・販売単価 B S I



(付表) 仕入単価 B S I の推移 (上昇-低下)

	製造業	製造業			非製造業	仕入単価 BSI
		建設業	卸売業	小売業		
26年 7-9月期	53.1	62.5	54.2	35.0	51.5	52.0
26年 10-12月期	51.9	63.6	40.0	20.0	43.9	46.4
27年 1-3月期	43.8	50.0	31.3	29.0	35.8	38.2
27年 4-6月期	40.9	41.2	54.3	15.4	38.9	39.6
27年 7-9月期	25.0	38.5	43.5	26.9	37.8	34.0
来期見通し	27.1	38.5	41.3	23.1	36.0	33.3

(付表) 販売単価 B S I の推移 (上昇-低下)

	製造業	製造業				非製造業	販売単価 BSI
		建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス		
26年 7-9月期	18.8	0.0	45.8	0.0	25.0	19.1	19.0
26年 10-12月期	21.4	0.0	35.0	-20.0	6.3	6.7	10.3
27年 1-3月期	25.0	13.3	22.4	-15.2	6.8	8.3	12.3
27年 4-6月期	15.9	3.0	31.4	0.0	-5.7	7.6	9.7
27年 7-9月期	12.2	0.0	27.1	0.0	0.0	8.2	9.1
来期見通し	14.3	-5.3	20.8	7.1	-2.3	5.7	7.7

(7) 在庫投資・在庫水準の状況 —在庫幾分積み増しの動き—

27年7～9月期の「在庫投資BSI」は、製造業が前期比6.1ポイント上昇の6.1、非製造業は同3.3ポイント上昇の0.0となった。

製造業は飲料、木材・木製品、鉄鋼で手控えの動きがみられたものの、酒類、水産加工、パルプ・紙、生コン、電子部品・デバイスで積み増しの動きがみられ、全体では上昇した。

非製造業をみると、卸売業では青果物、水産物、機械器具で、小売業ではスーパー、自動車、家電で積み増しの動きがみられた。

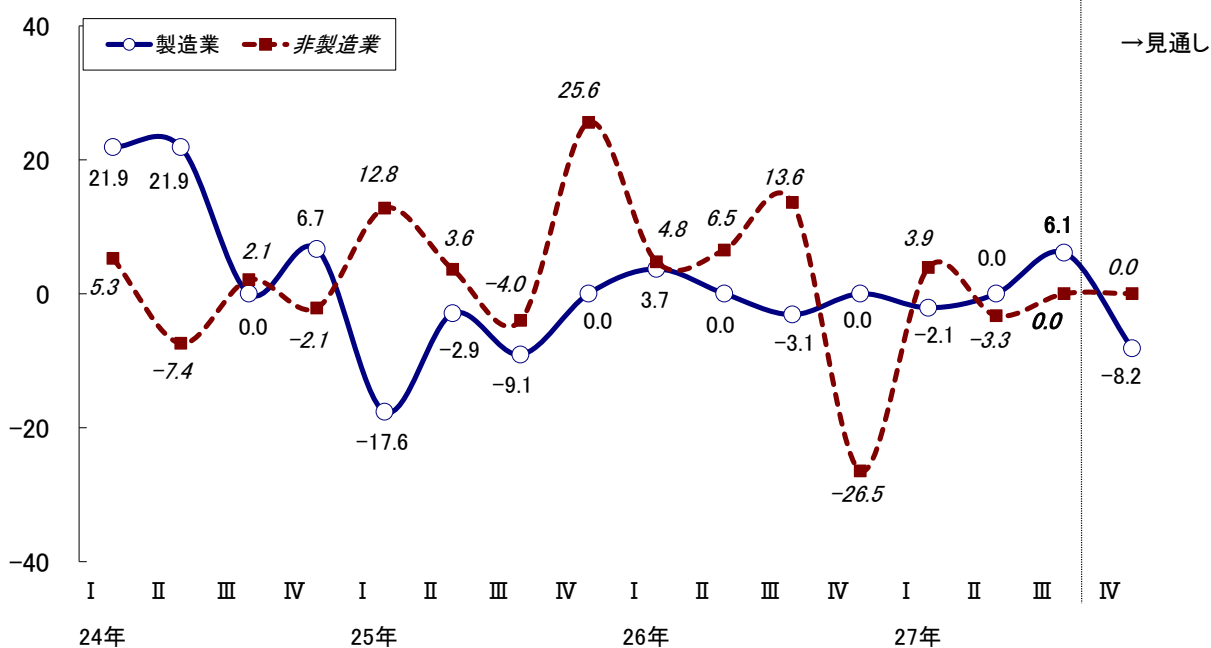
来期の在庫投資BSIは、製造業が当期

比14.3ポイント低下の△8.2、非製造業は同横ばいの0.0と見込まれる。

次に在庫水準についてみると、製品・商品在庫水準BSIは、製造業の「製品在庫水準BSI」が前期比1.8ポイント上昇の4.1となった。一方、卸・小売業の「商品在庫水準BSI」は同7.8ポイント低下の5.5となった。

来期は、製品では水産加工、畜産加工、パルプ・紙で、商品では水産物、機械器具、米、食料品全般、自動車などで不足感が見込まれている。（以上、8図、付表参照）

(8図) 在庫投資BSI（製造業、非製造業）



(付表) 在庫関連BSIの推移

	在庫投資BSI		製品・商品在庫水準BSI	
	製造業	非製造業	製造業	卸・小売業
26年 7～9月期	-3.1	13.6	-3.1	2.3
26年 10～12月期	0.0	-26.5	-7.1	5.7
27年 1～3月期	-2.1	3.9	-4.2	16.0
27年 4～6月期	0.0	-3.3	2.3	13.3
27年 7～9月期	6.1	0.0	4.1	5.5
来期見直し	-8.2	0.0	-2.0	-2.8

(8) 設備投資の動向

—製造業上昇、非製造業ほぼ横ばい—

27年7～9月期の「設備投資BSI」は、製造業が前期比14.5ポイント上昇の△4.1、非製造業は同0.4ポイント低下の△2.0となった。

製造業は、酒類で受配電設備や仕込タンク、金属製品で加工機械、造船で機械設備・社宅など積極的な動きがみられ、全体では前期比で上昇した。

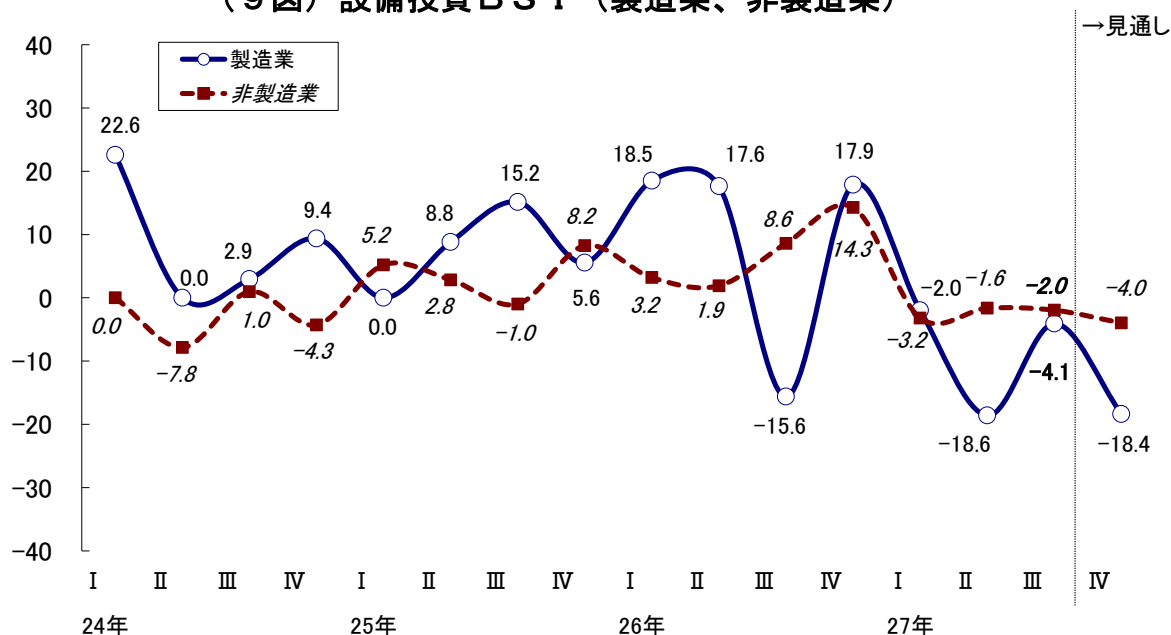
非製造業をみると、建設業では重機、車輛購入などの投資がみられた。卸売業では建設資材で本社ビル改修や建物付属設備などの投資がみられた。小売業ではスーパ

ーで店舗改装、省力化、既存什器更新、自動車で土地購入、燃料で車輛購入、家電で店舗改装などの投資がみられた。運輸・サービス業では道路貨物運送でフォークリフト購入などの投資がみられた。ガス事業では機械設備の投資がみられた。全体では前期比ほぼ横ばいで推移した。

なお、来期の「設備投資BSI」は、製造業が当期比14.3ポイント低下の△18.4、非製造業が同2.0ポイント低下の△4.0と、ともに低下が見込まれている。

(以上、9図参照)

(9図) 設備投資BSI (製造業、非製造業)



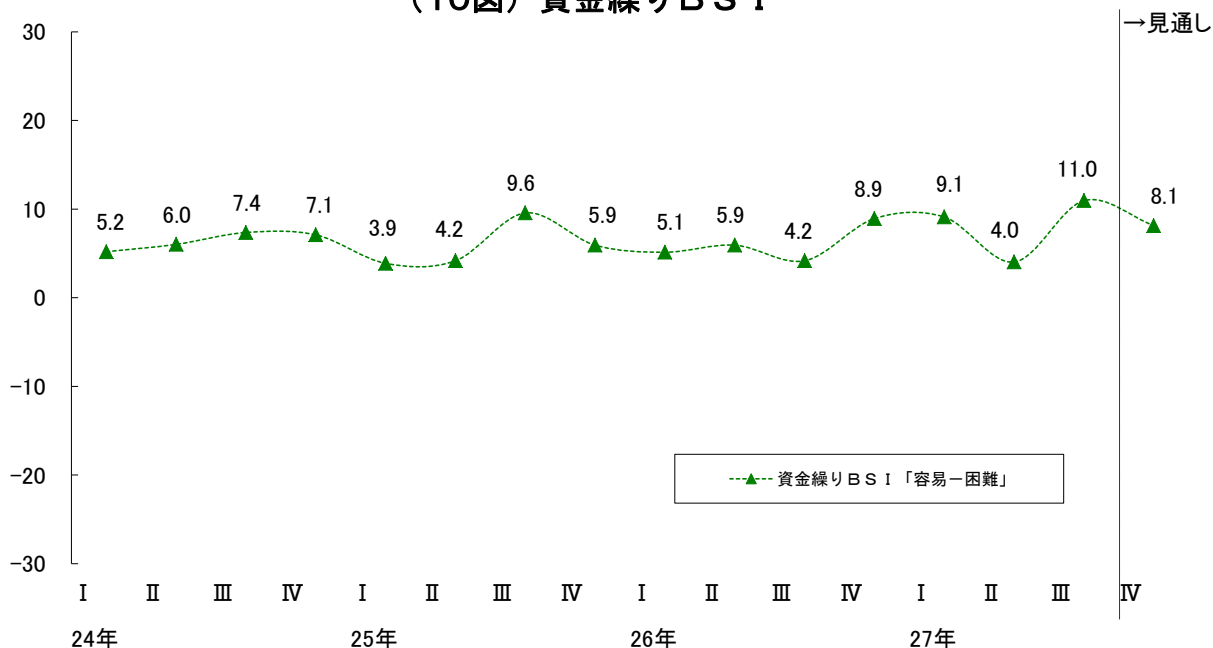
(9) 企業金融の動向 — 手元資金の増加傾向が強まる —

27年7～9月期の企業金融の動向をみると、「資金繰りBSI」は前期比7.0ポイント上昇の11.0となり、手元資金の増加傾向がやや強まった。

来期は当期比2.9ポイント低下の8.1と手元資金の厳しさが幾分強まる見通しである。幾分タイト化が窺われるが、全体にほぼ適正範囲内での動きが見込まれている。

(以上、10図、付表 参照)

(10図) 資金繰りBSI



(付表) 資金繰りBSIの推移

	資金繰りBSI (容易-困難)
26年7-9月期	4.2
26年10-12月期	8.9
27年1-3月期	9.1
27年4-6月期	4.0
27年7-9月期	11.0
来期見通し	8.1

(10) 地区別の状況 — 「業況BSI」3地区とも上昇 —

27年7～9月期の「業況BSI」を地区別にみると、青森地区が前期比13.1ポイント上昇の6.1、津軽地区が同9.0ポイント上昇の15.1、県南地区が同0.7ポイント上昇の△2.5と3地区ともに上昇した。

主要BSIをみると、まず、「生産高BSI」は、青森地区が前期比37.5ポイント上昇の

12.5、津軽地区が同6.8ポイント上昇の25.0となった。一方、県南地区は同11.8ポイント低下の0.0となった。

「出荷高BSI」は、青森地区が同65.0ポイント上昇の18.8、津軽地区が前期比2.0ポイント上昇の11.1となった。一方、県南地区は同13.5ポイント低下の8.7となった。

「売上高 BSI」は、県南地区が前期比 19.2 ポイント上昇の△4.9、津軽地区が同 8.8 ポイント上昇の 26.7 となった。一方、青森地区は同 12.1 ポイント低下の 3.8 となった。

建設業の「受注高 BSI」は、津軽地区が前期比 75.0 ポイント上昇の 25.0、青森地区が同 64.8 ポイント上昇の 23.1、県南地区が同 17.3 ポイント上昇の△7.7 となった。津軽地区と青森地区が大幅に上昇した。

「在庫投資 BSI」は、津軽地区が前期比 8.4 ポイント上昇の 4.2、青森地区が同 8.2 ポイント上昇の 5.9 となった。一方、県南地区は同 2.1 ポイント低下の△2.1 となった。

「設備投資 BSI」は、県南地区が前期比 9.0 ポイント上昇の△1.3、津軽地区が同 2.6 ポイント上昇の△4.2 となった。一方、青森地区は同 1.0 ポイント低下の△2.6 となった。

「採算 BSI」は、津軽地区が前期比 7.3 ポイント上昇の 9.4、県南地区が同 6.7 ポイント上昇の 0.0、青森地区が同 1.3 ポイント上昇の△7.4 と 3 地区ともに上昇した。

「資金繰り BSI」は、津軽地区が当期比 11.1 ポイント上昇の△1.9、青森地区が同 6.2 ポイント上昇の 13.6、県南地区が 3.8 ポイント上昇の 17.1 と 3 地区ともに上昇した。

来期の「業況 BSI」をみると、青森地区が当期比 19.5 ポイント低下の△13.4、津軽地区が同 15.1 ポイント低下の 0.0、県南地区が同 5.2 ポイント低下の△7.7 と 3 地区ともに低下が見込まれる。

他の主要 BSI についても、来期は、生産高、出荷高で地区ごとのばらつきがみられるほかは、全体的に低下が見込まれている。

(以上、1 表 参照)

(1 表) 地域別 B S I の推移

	業況BSI			生産高BSI			出荷高BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
26年 7－9月期	4.7	-24.2	-15.4	14.3	-37.5	17.6	0.0	-37.5	12.5
26年 10－12月期	5.4	-20.0	-10.2	-25.0	-50.0	5.6	-75.0	-50.0	5.6
27年 1－3月期	-31.7	-7.3	-14.3	-21.4	-20.0	8.3	-29.1	-12.1	-12.1
27年 4－6月期	-7.0	6.1	-3.2	-25.0	18.2	11.8	-46.2	9.1	22.2
27年 7－9月期	6.1	15.1	-2.5	12.5	25.0	0.0	18.8	11.1	8.7
来期見通し	-13.4	0.0	-7.7	-25.0	25.0	20.8	-25.0	11.1	17.4
	売上高BSI			受注高BSI			在庫投資BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
26年 7－9月期	7.4	0.0	-33.3	33.3	0.0	55.6	11.5	5.6	3.1
26年 10－12月期	-11.5	-43.8	-12.0	12.5	37.5	28.6	-11.1	-30.8	-9.7
27年 1－3月期	-50.0	-27.3	16.7	-23.1	-18.2	0.0	8.3	-10.3	2.1
27年 4－6月期	15.9	17.9	-24.1	-41.7	-50.0	-25.0	-2.3	-4.2	0.0
27年 7－9月期	3.8	26.7	-4.9	23.1	25.0	-7.7	5.9	4.2	-2.1
来期見通し	-19.2	-10.0	-12.8	-15.4	-25.0	-30.8	0.0	-8.3	-4.2
	設備投資BSI			採算BSI			資金繰りBSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
26年 7－9月期	19.0	-15.6	0.0	-4.9	-31.3	-25.0	16.7	-6.9	0.0
26年 10－12月期	16.7	0.0	22.9	0.0	-23.3	-22.0	32.4	-17.9	6.4
27年 1－3月期	3.8	-14.8	-1.4	-11.4	-11.3	-13.7	17.3	1.9	5.4
27年 4－6月期	-1.6	-6.8	-10.3	-8.7	2.1	-6.7	7.4	-13.0	13.3
27年 7－9月期	-2.6	-4.2	-1.3	-7.4	9.4	0.0	13.6	-1.9	17.1
来期見通し	-4.0	-18.8	-3.9	-8.6	-5.8	2.7	8.6	0.0	13.2

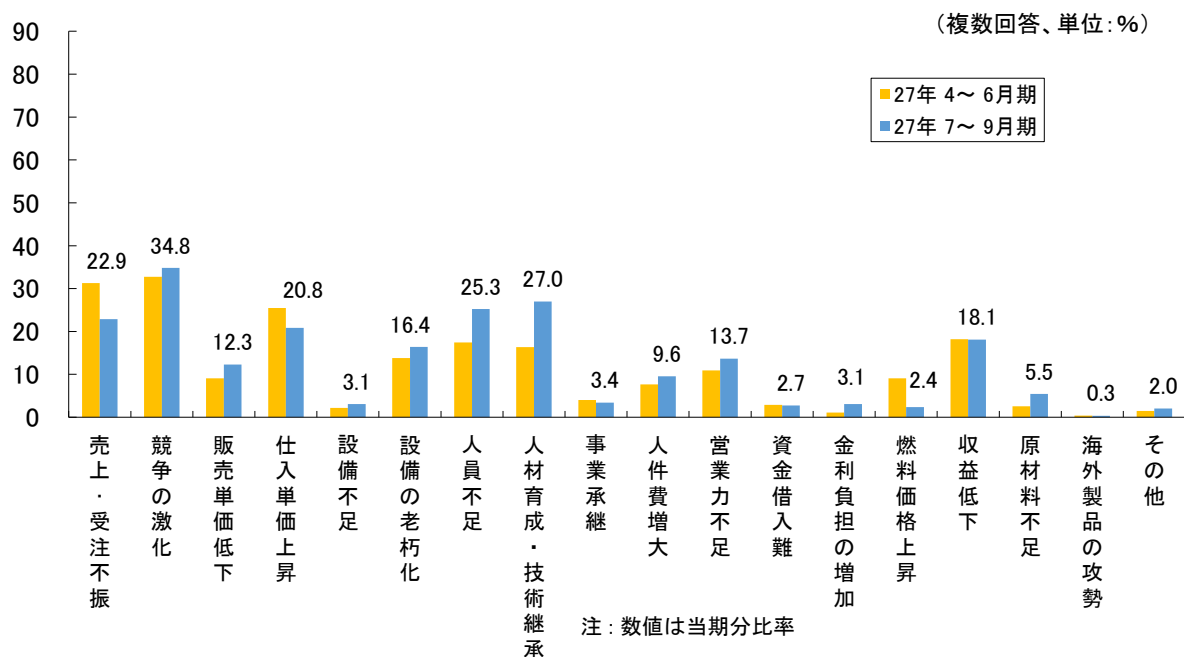
3. 経営上の問題点

—「人員不足」、「販売単価低下」など10項目で割合が増加—

27年7～9月期の経営上の問題点については、「競争の激化」が34.8%でトップとなった。次いで「人材育成・技術継承」が27.0%、「人員不足」が25.3%、「売上・受注不振」が22.9%、「仕入単価上昇」が20.8%、「収益低下」が18.1%などと続いた。当期は「売上・受注不振」、「仕入単価上昇」などの割合が前期に比べ減少した一方、「人員不足」、「販売単価低下」など10項目では割合が増加した。

トップに上げられた経営上の問題点を産業別にみると、建設業、卸売業、小売業、サービス業では「競争の激化」、製造業では「仕入単価上昇」、運輸業と、小売業での同率トップとして「人員不足」が上げられた。なお建設業では「人員不足」の割合も広がった。また、「人員不足」は運輸・サービス業のうち運輸業で6割弱と、高い割合を示した。
(以上、11図、付表 参照)

(11図) 経営上の問題点



(付表) 経営上の問題点

(複数回答、単位：%)

	売上・受注不振	競争激化	販売単価低下	仕入単価上昇	人員不足	人件費増大	金利負担増加	収益低下
26年 7～9月期	43.7	63.5	17.5	49.2	33.3	12.7	6.3	39.7
26年 10～12月期	47.9	57.3	18.8	45.3	31.6	12.0	3.4	38.5
27年 1～3月期	46.0	51.2	18.3	42.3	28.6	12.2	1.9	23.9
27年 4～6月期	31.3	32.7	9.1	25.5	17.5	7.6	1.1	18.2
27年 7～9月期	22.9	34.8	12.3	20.8	25.3	9.6	3.1	18.1

4. 来期の見通し

来期(27年10～12月期)の「業況BSI」は、全産業ベースで当期比13.1ポイント低下の△8.0と低下する見通しである。産業別にみると、運輸・サービス業が同28.7ポイント低下の△8.3、建設業が同14.8ポイント低下の△7.5、製造業が同14.2ポイント低下の△2.0、小売業が同3.6ポイント低下の△17.9とそれぞれ低下が見込まれる。卸売業は同横ばいの△8.3となる見通しである。

次に「採算BSI」をみると、全産業ベースで当期比3.3ポイント低下の△3.8となる見通しである。産業別にみると、運輸・サービス業が同15.6ポイント低下の△6.7、小売業が

同14.3ポイント低下の△10.7、製造業が同2.1ポイント低下の2.0となる見通しである。一方、建設業は同7.3ポイント上昇の△9.8、卸売業は同4.4ポイント上昇の2.2と見込まれている。

このほかの主要BSIでは、「操業度BSI」が上昇する見通しであるが、「生産高BSI」、「受注高BSI」、「売上高BSI」、「出荷高BSI」は、いずれも低下が見込まれている。

要因としては、中国経済の失速の影響、株安による資産効果の後退などが想定される。(以上、1～12図、付表参照)

(12図) 業況BSIの見通しと実績の推移



(付表) 業況BSI、採算BSIの来期見通し

		製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
業況BSI	27年7-9月期	12.2	7.3	-8.3	-14.3	20.4	5.1
	来期見通し	-2.0	-7.5	-8.3	-17.9	-8.3	-8.0
採算BSI	27年7-9月期	4.1	-17.1	-2.2	3.6	8.9	-0.5
	来期見通し	2.0	-9.8	2.2	-10.7	-6.7	-3.8

以上

【 本件に関する照会先 】

一般財団法人 青森地域社会研究所

担当：竹内 慎司

TEL. 017-777-1511